

令和元年度公開研究授業

主体的・対話的で深い学びを実現するための授業の実践
～「授業デザイン」・「問い」を考える～



- ◇ 研究主題 「主体的・対話的で深い学びを実現するための授業の実践
～『授業デザイン』・『問い』を考える～」
- ◇ 実施日 令和元年 11 月 15 日（金）
- ◇ 実施内容
 - 公開研究授業 13:25 ～14:20（55 分）
 - * 全体テーマおよび各教科でのテーマに沿った内容の授業を展開
 - * 授業担当者は、授業開始時に「基軸となる問い」「本時の問い」を生徒に提示
 - * 研究授業に対する「思考力の深まりについての生徒による授業評価」の実施
（実施科目） 国語総合・世界史 A・数学 I・情報の科学・体育・英語表現 I
（実施学年） 第 1 学年
 - 研究協議 14:35～15:15（40 分）（各教室）
 - * 教科ごとに「研究主題」「基軸となる問い」「本時の問い」を踏まえた振り返り
 - * 「主体的な思考力」等についての評価とともに、授業の工夫や意図が生徒にどう伝わり、そこからどのような学びにつながったかなどについて生徒に意見を聞くことを中心に協議
 - * 授業参観者に加え、受講生徒 4 名程度も参加する授業に対する質疑応答。
 - 全体研究協議 15:30～16:50（80 分）（会議室）
 - * 教科別研究協議における成果・課題の報告、質疑応答
- ◇ 成果と課題
 - ・ 研究授業に対する「思考力の深まりについての生徒による授業評価」で 9 割以上の生徒が「自分の考えを深めることができた」と回答した。
 - ・ 「基軸となる問い」「学習評価」について、更に研究を進めていく必要がある。

1 公開研究授業

○ 実施クラス・科目

1年1組	1年2組	1年3組	1年4組	1年5組	1年6組	1年7組
情報の科学	数学I	体育	国語総合	体育	世界史A	英語表現I

○ 「基軸となる問い」と「本時の問い」一覧

科目	基軸となる問い	本時の問い
国語総合	書き手はなぜ歌物語を書いたのか？	『伊勢物語』『大和物語』のどちらが歌物語として評価できるか？
世界史A	植民地支配の影響は、なぜ現代のアジアの問題につながるのか？	ヨーロッパの植民地支配が与えた東南アジアへの影響とは何か？
数学I	図形の辺や角の関係性をどのように用いればよいか？	問題解決のために用いる定理をどのように見極めたらよいか？
情報の科学	今後の情報社会の発展に参加するために必要なものとは？	ネットワーク上の発信された情報は何を意図するのか？
体育	スポーツには、なぜルールが必要なのか？	スポーツって何からどうやって生まれたの？参加者共通の決まりとは何？
英語表現I	自分の意見についてどのように論理的に英語で述べることができるか？	What can you do in order not to waste food?

○ 授業内容

・国語科：国語総合

『伊勢物語』『大和物語』のどちらが歌物語として評価できるか？

【活動内容】	【主体的思考の手立て】
1. 『伊勢物語』『大和物語』のどちらが評価できるかを、ディベート形式で討論する	歌物語の優劣ではなく、特徴を際立たせるための討論だということ意識させる
2. 評価したものとその理由を発表する	他の班の意見を聞き、自分たちとの共通点・相違点を理解させる
3. 発表から見えてきたものをまとめる	「男の気持ちを変えたものは何か？」について考えさせる



▲意見をまとめる



▲討論の流れを発表する

・地理歴史科：世界史A

ヨーロッパの植民地支配が与えた東南アジアへの影響とは何か？

【活動内容】	【主体的思考の手立て】
1. 各班に割り当てられた問いについて考え、答えを黒板に貼る	「本時の問い」に繋がる、小問を考えさせる
2. 東南アジアの植民地化について、自分たちの答えの不足分を補いながら、説明を聞く	板書の地図を確認させながら聞かせる
3. 各班の問い・教員の説明を踏まえた上で、「本時の問い」について考える	植民地支配がその後の東南アジアへ与えた影響を多面的に考えるように促す



▲問いを投げかける

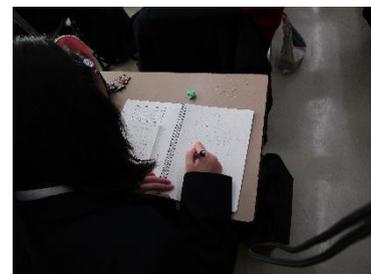


ノートをまとめる ▶

・数学科：数学 I

問題解決のために用いる定理をどのように見極めたらよいか？

【活動内容】	【主体的思考の手立て】
1. 正弦定理と余弦定理を使う問題を解く	分からないところがあれば、周りと共有して解決するよう促す
2. 各問題は、どちらの定理を使うべきか、考察する	情報として何を与えられたときに、2つの定理を活用できるのかを考えさせる 見極める方法の仮説が立てられたら、別の問題で確認させる
3. 振り返りを行う	理解が深まったことを書かせる



▲一人で問題を解く



▲周囲と相談する

・情報科：情報の科学

ネットワーク上の発信された情報は何を意図するのか？

【活動内容】	【主体的思考の手立て】
1. 松陽高校の 2013 年 4 月時点の Wikipedia 現在の Wikipedia を比較する	誤った記載について答えさせ、信ぴょう性が必ずしも担保されないことを理解させる
2. 以後松陽高校の Wikipedia が書き込まれるところを確認する	見かけでは匿名の書き込みに見えても、IP アドレスにより容易に特定できることを理解させる
3. 本校に関する質問掲示板の回答をどのようにするか考える	回答者が直接質問者と会わないため、質問する内容を考え有効な質問をすることを理解させる



▲Wikipedia を見る



▲掲示板を見て回答を考える

・保健体育科：体育（体育理論）

スポーツって何からどうやって生まれたの？参加者共通の決まりとは？

【活動内容】	【主体的思考の手立て】
1. スポーツがどうやって生まれたのか、歴史や変遷を知る	普段何気なく行っているスポーツの始まりを考えるきっかけにさせる
2. 参加者共通の決まりについて考える	ただ動物を真似ることだけでなく、よりスポーツを進化、一般化させるために、人々がルールを作り、整理していったことを理解させる
3. 色々なスポーツの歴史と発展を調べ、発表する スポーツの発展や変化の情報から「見るスポーツ」に触れる	「見るスポーツ」への魅力を高めさせる



▲歴史の変遷を調べる



▲調べたスポーツについて発表する

・外国語科：コミュニケーション英語Ⅰ

What can you do in order not to waste food?

【活動内容】	【主体的思考の手立て】
1. 食品廃棄についての文章を読み、内容を把握する	生徒の様子を見ながら問いかける
2. 食品廃棄について、自分の意見とグループの意見を考える	最初に自分の意見をしっかり考えさせる
3. 自分の意見について文章にまとめて表現する	グループで話し合った意見も反映し、構成・展開を考えて表現させる



▲「問い」を投げかける



▲食品廃棄について話し合う

2 研究協議会 生徒を交えた教科別研究協議会（振り返り）



▲国語科



▲地歴公民科・家庭科



▲数学科



▲理科・情報科



▲保健体育科



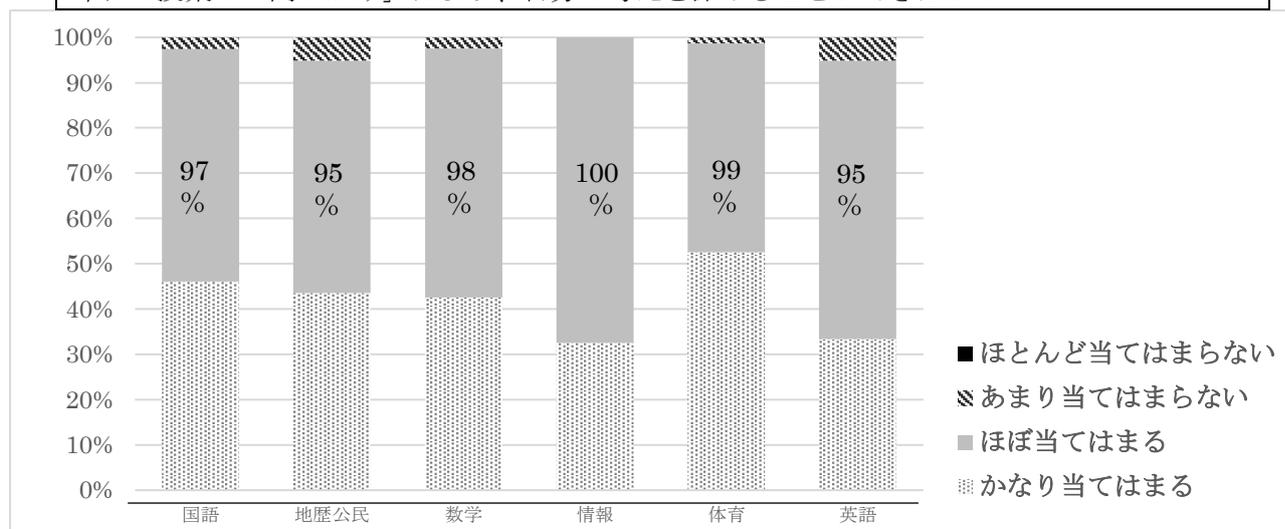
▲外国語科

(生徒の意見)

- ・話し合いなどで新しい発見があった。一人ひとり答えが違って「個性」が出る「問い」や、授業のまとめを自分で考えられる「問い」が良い。(国語総合)
- ・「問い」を毎回考えるのは時間的にハードではあるが、教科書・資料集を踏まえてどれだけ「問い」の答えに近づけることができるか、という面で意味深い。(世界史A)
- ・「先に解き方を教わってから演習」するよりも、今回の授業のように「まず考えてみてから教わる」方が良い。「問い」を意識できた。(数学Ⅰ)

(生徒による研究授業評価結果)

今日の授業の「問いかけ」により、自分の考えを深めることができたか？



*全ての教科で90%以上の生徒たちが、「考えを深めることができた」と回答した。

(生徒による研究授業評価結果 (記述))

今日の授業を通して、どのようなことを自分で考えましたか

- ・ 2つの物語を比べ、何が一緒で、何が違うのかを見つけ、それぞれの良さを考えるようにした。(国語総合)
- ・ 先生が見せてくれたものにどのような意図があるか考えることができた。(情報の科学)
- ・ そのスポーツに対して自分はどのように向き合っているのかについて考えた。(体育)
- ・ 他の科目との関連もあり、習った知識も使いながら、環境について考えた。(保健体育)

3 全体研究協議会

「基軸となる問い」「本時の問い」は、どのように作用したか

- ・ 数学では、「基軸となる問い」を生徒が覚えておらず作用しにくかった。生徒に考えさせるような「問い」を立てる必要がある。情報や英語では、今回は単元の初回の授業だったため、作用しなかった。
- ・ 討論形式で、AとBのどちらを選んでも良いという、広がりのある「本時の問い」を立てた。生徒には作用していた。
- ・ 生徒が疑問に思ったことを拾っていく、生徒がもっと知りたい・考えたいと思ったことをすくい上げるような授業を目指したい。(指導主事より)

4 今年度の取組の成果と課題

(成果)

- ・ 授業デザインという観点から、授業に「問い」を組み込むねらい、また、そのための授業・単元づくりについて教員全体の理解を深めることができた。
- ・ 「主体的・対話的で深い学びを実現するための授業の実践」をテーマに各教科で実践した研究授業において、全ての教科で90%以上の生徒が「自分の考えを深めることができた」と実感した。

(課題)

- ・ 「基軸となる問い」を立てることの難しさを感じたと同時に、十分に効果を得ることができなかった。今後は教科ごとの協議を重ね、生徒が主体的・対話的で深い学びのできる基軸となる問いを検討していく。
- ・ 主体的に考えることのできる「問い」を組み込んだ授業についての研究は、学校全体として軌道に乗ってきた。その考えたことを生徒の自己評価だけでなく、客観的に評価する観点・方法について、一層の研究・開発を進めていく。

